

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】理念、目的、教育目標は大学案内やホームページなどで学生や受験生に周知されているが、周知の程度は学部、研究科により差が見受けられる。とりわけ在学生には『履修の手引き』への掲載やガイダンスなどを通じて、一層の周知を図ることが期待される。					
点検・評価問題点	理念・目的・教育目標等に関して、学生の理解は十分とは言えない。					
改善方策	1-9-1 理念・目的・教育目的等については、履修の手引きに明記し、入学直後の「スタートアッププログラム」等のオリエンテーション行事およびガイダンスを通じ周知し、さらに初年次の基礎教育必修科目フレッシュマンセミナー(スポーツ科学科)、健康科学基礎演習(健康科学科)において周知徹底する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
各学科で具体案を検討			2011. 3	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成		
				(B または C の理由)		
				スポーツ科学科では2011年度の履修の手引き「羅針盤」に、アドミッションポリシーと5項目のステューデントポリシーを掲載し、学部の理念、目的、教育目標を分かりやすい言葉で提示した。その内容について2011年度入学生のオリエンテーション企画であるスタートアッププログラムの中で周知した。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
スタートアッププログラム(スポーツ科学科)、ガイダンス、フレッシュマンセミナー(スポーツ科学科)、健康科学基礎演習(健康科学科)において周知する。			2012. 3	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成		
				(B または C の理由)		
				スポーツ科学科、健康科学科ともにセミナー、基礎演習等で周知を図っている。		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
スタートアッププログラム(スポーツ科学科)、ガイダンス、フレッシュマンセミナー(スポーツ科学科)、健康科学基礎演習(健康科学科)において周知する。			2013. 3	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成		
				(B または C の理由)		
				スポーツ科学科、健康科学科ともにスタートアッププログラム、ガイダンス、セミナー、基礎演習等で周知を図っている。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
スタートアッププログラム(スポーツ科学科)、ガイダンス、フレッシュマンセミナー(スポーツ科学科)、健康科学基礎演習(健康科学科)において周知する。			2014. 3	A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成		
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
スタートアッププログラム(スポーツ科学科)、ガイダンス、フレッシュマンセミナー(スポーツ科学科)、健康科学基礎演習(健康科学科)において周知することで全学年に周知が図られる。			2015. 3	A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成		
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成		

		(B または C の理由)
--	--	-----------------

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】理念、目的、教育目標は大学案内やホームページなどで学生や受験生に周知されているが、周知の程度は学部、研究科により差が見受けられる。とりわけ在学生には『履修の手引き』への掲載やガイダンスなどを通じて、一層の周知を図ることが期待される。
点検・評価問題点	理念・目的・教育目標等に関して、学生の理解は十分とは言えない。
改善方策	1-9-1 理念・目的・教育目的等については、履修の手引きに明記し、入学直後の「スタートアッププログラム」等のオリエンテーション行事およびガイダンスを通じ周知し、さらに初年次の基礎教育必修科目フレッシュマンセミナー(スポーツ科学科)、健康科学基礎演習(健康科学科)において周知徹底する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

スポーツ科学科では、履修の手引きである「羅針盤」にアドミッションポリシーと、学部および学科の教育目標を5項目にまとめスローガン化したステューデントポリシー「Big Hand」を明示した。これらをスタートアッププログラムで紹介した上で、毎週のフレッシュマンセミナーの最初に校歌斉唱と「Big Hand」の全員での音読を実施し、徹底を目指している。

所見	
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

スポーツ科学科では従来どおり、スタートアッププログラム等で学生への周知を行ってきた。一方健康科学科では新たに作成したアドミッションポリシーを基礎演習等で周知していく予定である。

所見	さまざまな機会に理念、目的、教育目標の周知が図られていることは評価できます。ただし、どのような人の入学を期待するかを示した「アドミッションポリシー」は、在学生ではなく、もっぱら受験生を対象としたものです。在校生にはカリキュラムポリシーとディプロマポリシーの周知が求められるでしょう。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

スポーツ科学科では従来どおりスタートアッププログラム、ガイダンス、フレッシュマンセミナー等の授業を利用して学生への周知を行っている。また健康科学科では基礎演習等で周知を図っている。スポーツ科学科では従来どおりスタートアッププログラム、ガイダンス、フレッシュマンセミナー等の授業を利用して学生への周知を行っている。また健康科学科では基礎演習等で周知を図っている。

所見	理念・目的・教育目的等を学生に周知するために、さまざまな手段が講じられていることは、評価できます。今後は、何らかの方法により、どの程度周知されているか周知度の検証が必要でしょう。
----	---

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011年6月17日

認証評価指摘事項	【総評】キャリア教育やキャリアに対する動機づけの面で課題があったが、2010（平成 22）年度からキャリア教育の科目を開講するなどの対応が開始されており、今後の成果が期待される。					
点検・評価問題点	カリキュラムの自由度の高さが、「教員」か「企業」などの進路の選択において迷いを生じさせている。					
改善方策	1-9-2. キャリアへの意識を高める					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
				→		
2010 年度実施計画		達成時期	2010 年度取り組み結果			
キャリア教育を重視した新カリキュラム導入 フレッシュマンセミナーの新設		2010. 4	○	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
		2010. 4	（ B または C の理由 ） キャリア教育を重視した新カリキュラム導入 フレッシュマンセミナーの新設			
2011 年度実施計画		達成時期	2011 年度取り組み結果			
2 年次演習科目（スポーツキャリア）の新設		2011. 4	○	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			（ B または C の理由 ）			
2012 年度実施計画		達成時期	2012 年度取り組み結果			
教育実習・採用試験対策科目の新設 3・4 年次連年ゼミナールの新設		2013. 3		A 完全に達成	○ B 達成半ば	C 未達成
			（ B または C の理由 ） スポーツ科学科においては 3・4 年次連年ゼミナールが新設されたが教育実習・採用試験対策科目の新設はならなかった。			
2013 年度実施計画		達成時期	2013 年度取り組み結果			
新カリキュラム年次進行の完了と反省				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			（ B または C の理由 ）			
2014 年度実施計画		達成時期	2014 年度取り組み結果			
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			（ B または C の理由 ）			
2015 年度実施計画		達成時期	2015 年度取り組み結果			
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
			（ B または C の理由 ）			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】キャリア教育やキャリアに対する動機づけが弱い。
点検・評価問題点	カリキュラムの自由度の高さが、「教員」か「企業」などの進路の選択において迷いを生じさせている。
改善方策	1-9-2. キャリアへの意識を高める

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

スポーツ科学科では新カリキュラム導入に当たりキャリア教育を重視して、1 年生にフレッシュマンセミナーを新設した。

所見	フレッシュマンセミナーの新設をはじめとする新カリキュラムの導入は、キャリア教育の充実に対して高く評価できる。
----	--

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010 年度に施行開設した 2 年次演習科目「スポーツキャリア」を必修科目として正式に設置し、より高い職業意識の醸成を志向した。

また、2 年次生に対して 2012 年度に開始される 3・4 年次連年科目「ゼミナール」の新設に向けての事前説明会等を 3 回実施し「ゼミナール」受講に対する意識づくりを行った。

所見	キャリア教育の充実が図られていることは評価できますが、この取り組みはスポーツ科学科と健康科学科の両学科で行なわれているものでしょうか。学科の性格が異なるとすればキャリア教育の中身も異なってくると思いますが、それを実施計画に示してください。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

スポーツ科学科においては、2011 年度に正式に設置された 2 年次演習科目（スポーツキャリア）を利用して引き続きより高い職業意識の醸成を志向した。

また、3・4 年次連年科目「ゼミナール」は 2012 年度に正式に設置され、継続的なキャリア教育の一端を担う体制作りができた。

しかし、教育実習・採用試験対策科目の正規授業としての新設はならなかった。

さらに、健康科学科では 1 年次演習科目（健康科学基礎演習）を利用してキャリア教育に言及しているが、4 年生時に履修する「卒業研究」によって継続的なキャリア教育の一端を補っている。

所見	キャリア教育の充実への取り組みについて評価できます。今後は新カリキュラム受講等によって学生の就職率や卒業時の満足度などが向上しているか調査も必要でしょう。
----	---

改善方策実施計画書

担当部局：スポーツ・健康科学部

責任者：スポーツ・健康科学部長

幹事：スポーツ・健康科学部事務室

2011 年 6 月 17 日

認証評価指摘事項	【総評】教育・研究上の目的は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。					
点検・評価問題点	教育・研究上の目的は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。					
改善方策	1-9-4(新規)全学部に対する指摘であるので、全学的な改善方策に従い実施する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
	→					
2010 年度実施計画		達成時期	2010 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2011 年度実施計画		達成時期	2011 年度取り組み結果			
学部長会議等において全学的な改善方策の手順について確認、実施する。		10 月	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由) 大学からの指示により学部、学科でアドミッションポリシーを検討し策定した。			
2012 年度実施計画		達成時期	2012 年度取り組み結果			
全学的指示により作成した 3 つのポリシーを整理しさらに検討していく。		2013. 3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2013 年度実施計画		達成時期	2013 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2014 年度実施計画		達成時期	2014 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			
2015 年度実施計画		達成時期	2015 年度取り組み結果			
			☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成	
			(B または C の理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】理念、目的、教育目標は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。
点検・評価問題点	教育・研究上の目的は、学科および専攻ごとに、学則に定められているものの、学部および研究科の目的は定められていない。
改善方策	1-9-4(新規) 全学部に対する指摘であるので、全学的な改善方策に従い実施する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

学部の目的として、「国民の健康の維持と増進を視野に入れ、スポーツを通して文化の発展と健康づくりに貢献できる人材の育成とともに医療・健康関連分野で健康の増進に寄与する人材の育成」（大東文化大学の点検・評価報告書 第1章9節28ページ）に明記されている。学則上に定めるには、学科の教育目的と同様全学的な文言の整合性や文字数の調整が必要である。

所見	改善方策に関する記載がないため評価不能
----	---------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

全学的な指示に従い、学部、学科で独自に検討し、学部については両学科で調整したうえで、アドミッションポリシーを策定した。学則改正は実施していない。

所見	全学的な調整を図ったうえで、速やかに理念、目的、教育目標が学則に盛り込まれることを期待します。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

学部として3つのポリシーを策定した。

所見	学部の教育研究上の目的を学則に定めることについて、現状がどうなっているのか、記述してください。
----	---